

病気のときこそ助け合おう

—普段のコミュニケーションを大切に—

NPO 法人生活企画ジェフリー 理事長 渡辺美恵



妻や母が寝込んだとき、夫や家族はどんな対応をするのでしょうか。多くの人たちは妻や母を気遣い回復への協力を惜しまないと思いますが、なかには理解しがたい態度をとる家族もいるのです。

<本当の話——これでよいのでしょうか>

ある町の「夫婦で学ぶ介護研修会」でのことです。講義を聴いたあと、「次は、具体的に介護を実習します。介護される役の方はベッドに横になってください」という講師の声に、十数組の夫婦たちはもめることなくサッサと位置につきました。ところがその結果に思わず「えっ!」。驚きをおぼせなかったそうです。なぜなら十数個のベッドに横たわっていたのは全員男性だったというのです。この光景はまさに介護の実態を象徴しているのかもしれませんが、とかく世の夫たちは、妻は丈夫で長生きするだろう、つまり、自分の介護は妻にと願っているのかもしれませんが、明日のことはおてんとう様に聞いてもわかりませんよね。

この例に限らず、固定的な性別役割分業は私たちの生活に根深く存在し、女性だけでなく男性の生き方も狭めてしまいがちです。とくに高齢女性にとってその現実、厳しいものでした。A子さん(36歳、育児休業中)の手紙には、「義母は入院しています。義父は身の回りのことをいっさい妻にまかせてきた人で、体は元気なのに、頭で、自分は家事ができないと思い込んでいます。そんな義父のために、義母は、土日、病院から外泊、自宅に戻って掃除、洗濯、食事づくりをまとめて済ませ、ヘトヘトになって病院に戻ります。病院でやっと安眠時間がもてるという状況です。退院後の2人の生活が思いやられます」と書かれていました。

<家族で語り合える、コミュニケーション豊かな関係づくりを>

病気になった女性は、「家族の世話ができなくなったことに悲しみ」「家族にごめんなさいといつもわびている」。これでは寝ていても十分な休息になりません。苦しいときこそ助け合おうのが家族なのではないでしょうか。しかし、病気の苦痛を夫や家族に伝えられないと悩む女性のなかには、家族と語り合うというコミュニケーションを怠っている人もいます。じつはその根底には、妻に無口・無関心な夫像が見え隠れしているのです。夫(妻)だから、家族だから、黙っていてもわかるはずというのは甘い幻想かもしれません。夫婦・家族のあり方は、個人の未来や社会のこれからを築く大事な要素です。だからこそ、男女が平等に互いを尊重しあう・コミュニケーション豊かな関係づくりを大切にしていきましょう。